

トラック輸送情報（平成19年10月分）

平成20年1月17日

国土交通省 総合政策局 情報管理部 情報安全・調査課 交通統計室

担当：平野、佐藤 内線28722

直通：03-5253-8346

ホームページ：<http://toukei.mlit.go.jp/>

1. 特別積合せ貨物

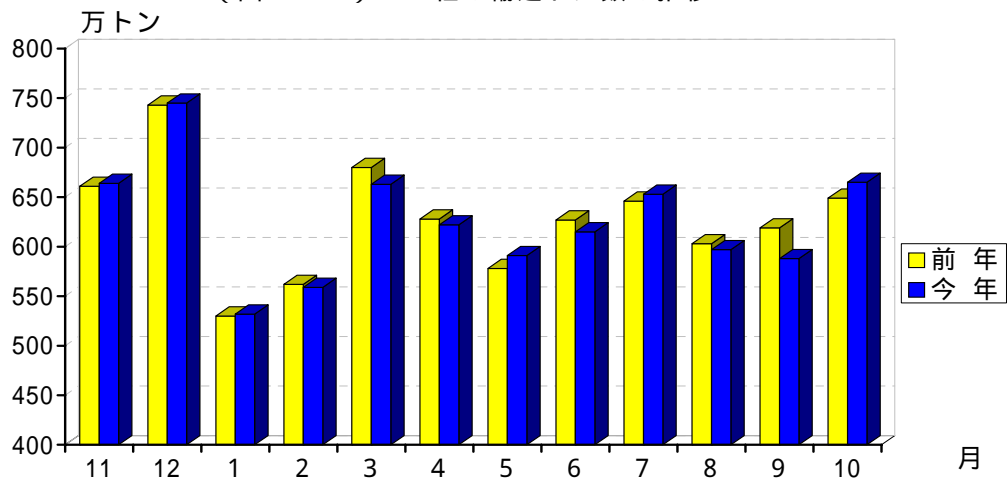
(1) 本月の概況

調査対象32社の本月の輸送量は、6,648,094トンで、前月と比べ総輸送量が約77万トン増加したため、前月比113.1%（季節調整済み103.6%）となり、前年同月との比較では、約15万トン増加したため、前年同月比102.4%の実績であった。

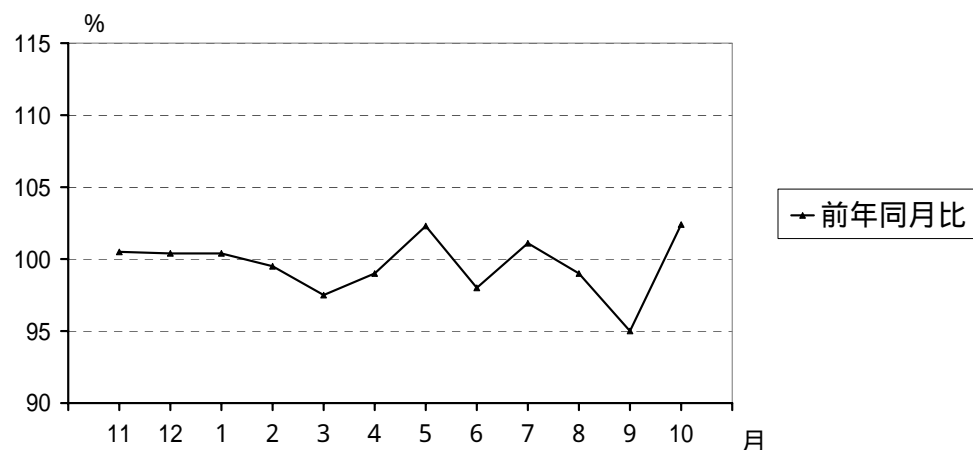
なお、平均稼働日数は25.4日で、前月と比べ2.9日の増加、前年同月と比べ0.9日の増加であった。稼働1日当たりの輸送量は、261,736トンで、前月と比べ約4百トン増加したため、前月比100.2%となり、前年同月との比較では、約3千トン減少したため、前年同月比98.7%の実績であった。

（図1-1、図1-2参照）

（図1-1）32社の輸送トン数の推移



（図1-2）32社の輸送トン数の前年同月比

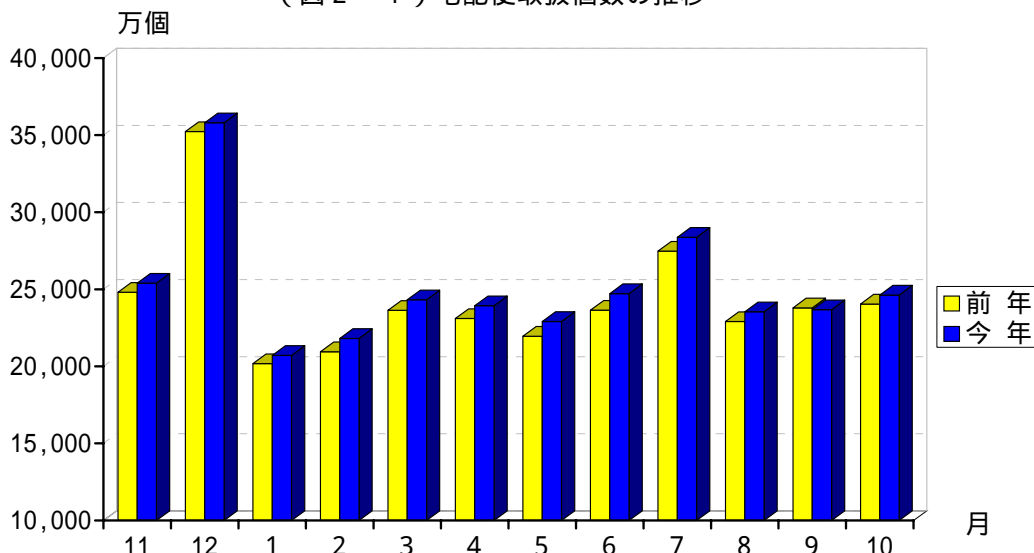


(2) 宅配便の概況

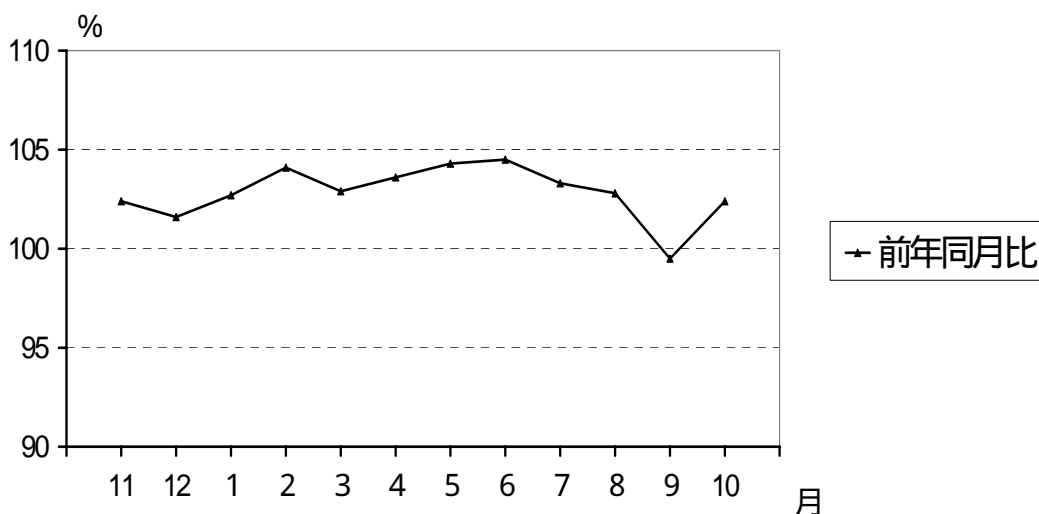
調査対象 19 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、246,226 千個で、前月と比べ 約 950 万個増加したため、前月比 104.0% (季節調整済み 99.7%) となり、前年同月との比較では、約 579 万個増加したため、前年同月比 102.4%の実績であった。

(図2 - 1、図2 - 2参照)

(図2 - 1) 宅配便取扱個数の推移



(図2 - 2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 品目別及び地域別輸送状況 (表1参照)

前月と比べると、稼働日数が増加したこと等により、貨物量が大幅に増加した。品目別では、すべての品目で増加がみられた。増加要因としては、工場・生産地からの貨物増及び季節的需要による貨物増であったが、「日用品」では商社・問屋からの貨物増及び倉庫から出る貨物増が、「その他(宅配便・百貨店配送品)」ではデパート・スーパーからの貨物増もみられた。地域的には、ほぼすべての品目で全国的に増加した。

前年同月と比べると、減少がみられる品目もあるものの、全体的にみると貨物量は増加している。品目別・地域別では、貨物量の増減が拮抗している品目が多い中、「化学工業品」で工場・生産地からの貨物増を要因とする増加回答がみられ、その傾向は特に神奈川、北陸信越、中国において顕著であった。その一方で、「金属製品」では工場・生産地からの貨物減を要因とした減少回答がみられ、その傾向は特に中国で顕著であった。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 32社)

品目	増減事業者数					主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	増減要因	
	著増	増	変らず	減	著減				
前 月 に 比 べ て	農水産品	1	4	12		1	米、青果物	北陸信越	4, 8
	金属製品		9	17	1		その他の金属製品	関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国、九州	4, 8
	機械	1	7	18		1	その他の機械、機械部品	東北、関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国、福岡	4, 8
	化学工業品		15	14		1	合成樹脂、その他の化学工業品	関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国、四国、福岡	4, 8
	繊維工業品	2	2	24		1	織物	関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4
	食料工業品		10	15		2	その他の食料工業品、加工食品	東北、関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4, 7, 8
	日用品	2	9	16		2	書籍・印刷物、身廻品、その他の日用品	北海道、東北、関東地方、中部地方、近畿地方、九州、全国	4, 5, 7, 10
	その他	2	10	15		1	宅配便、百貨店配送品	関東地方、愛知、大阪、兵庫、中国	2, 4, 8, 10
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品		3	13	1	1			
	金属製品		2	19	5	1	その他の金属製品	中国	4
	機械	3	1	18		5	機械部品 その他の機械	東京、中国	
	化学工業品		6	20	3	1	合成樹脂	神奈川、北陸信越、中国	4
	繊維工業品		2	23		4	織物	中部地方	
	食料工業品		3	16		7	加工食品 その他の食料工業品	東京、関東、北陸信越 福岡	5
	日用品		4	18		6	その他の日用品 書籍・印刷物	関東	4 7
	その他		6	16		6	宅配便 百貨店配送品	東京、全国	4, 5

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県、九州は沖縄を含む)]単位である。なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2 . 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 828 社 / 調査対象事業者数 1,077 社）の輸送量は、前月比 109.9%、前年同月比 104.8%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北陸信越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前 月 比	109.9%	120.0%	112.8%	103.3%	107.4%	105.2%	102.7%	109.7%	99.4%	108.1%	115.9%
前年同月比	104.8%	106.7%	104.7%	98.3%	107.7%	113.1%	103.2%	103.0%	97.4%	102.0%	127.7%

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送は、対前月比 120.0%、対前年同月比 106.7%であった。品目別には、本月はビートの収穫期を迎えたことにより、「その他の農産品」の輸送量増加が顕著なものとなった。また、値上がり前の駆け込み需要により、「揮発油」や「その他の石油製品」の輸送量が増加したほか、建設関連の需要増等により「木材」、「金属製品」、「セメント」の輸送量にも増加がみられた。一方、季節的需要減等により「動植物性飼・肥料」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しについては、冬季を迎えることにより工事関連資材の輸送量が減少するため、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送は、対前月比 112.8%、対前年同月比 104.7%であった。品目別には、季節的需要増等により「穀物」、「その他の製造工業品」の輸送量が増加したほか、建設関連の需要増等により「砂利・砂・石材」、「セメント」の輸送量が増加した。一方、季節的需要減等により前月に引き続き「食料工業品」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送は、対前月比 103.3%、前年同月比は 98.3%であった。品目別には、建設関連の需要増により「鉄鋼」の輸送量が、季節的需要増により「化学肥料」の輸送量が増加したほか、「その他の石油製品」の輸送量にも増加がみられた。一方、季節的需要減等により「機械」の輸送量が減少したほか、「食料工業品」の輸送量にも減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送は、対前月比 107.4%、前年同月比は 107.7%であった。品目別には、季節的需要増等により「穀物」、「食料工業品」の輸送量が増加したほか、工場・生産地からの貨物増等により「木材」、「機械」、「揮発油」、「その他の石油製品」の輸送量にも増加がみられた。一方、建設関連の需要減等により「砂利・砂・石材」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送は、対前月比 105.2%、対前年同月比は 113.1%であった。品目別には、商社・問屋からの貨物増等により「その他の製造工業品」の輸送量が増加したほか、「機械」の輸送量にも増加がみられた。一方、季節的需要減等により「食料工業品」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに横這い傾向と予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送は、対前月比 102.7%、前年同月比は 103.2%であった。品目別には、季節的需要増等により「繊維工業品」の輸送量が増加した。一方、「機械」の輸送量に顕著な減少がみられた。これは建設機械の輸送量の減少であり、建築基準法の審査厳格化による建築件数の低下が原因と思われる。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送は、対前月比 109.7%、対前年同月比は 103.0%であった。品目別には、公共工事による「砂利・砂・石材」、「セメント」の輸送量増加が顕著であった。また、季節的需要増等により「鉄鋼」、「化学薬品」、「紙・パルプ」の輸送量が増加したほか、「金属製品」、「その他の化学工業品」等の輸送量にも増加がみられた。一方、季節的需要減により「その他の農産品」の輸送量が減少したほか、「木材」、「その他の製造工業品」等の輸送量にも減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月は減少傾向、以降は横這い傾向と予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送は、対前月比 99.4%、対前年同月比は 97.4%であった。品目別には、季節的需要増等により収穫時期をむかえた「野菜・果物」の輸送量が増加した。そのほか、「その他の農産品」、「水産品」、「機械」、「セメント」等の輸送量にも増加がみられたが、全体としては前月・前年を下回っている。今後の輸送見通しは、次月は横這い傾向、以降は減少傾向と予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送は、対前月比 108.1%、対前年同月比は 102.0%であった。品目別には、季節的需要増等により「野菜・果物」の輸送量が増加したほか、建設関連の需要増等により「砂利・砂・石材」、「機械」、「セメント」、「廃棄物」等の輸送量が増加した。一方、工場・生産地からの貨物減等により「金属製品」、「食料工業品」等の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送は、対前月比 115.9%、対前年同月比は 127.7%であった。品目別には、建設関連の需要増により「鉄鋼」の輸送量が増加したほか、「その他の農産品（葉たばこ）」、「水産品（マグロ）」及び「その他（米軍物資）」等の輸送量にも増加がみられた。一方、「食料工業品（飲料品）」、「取り合せ品（先島行き本島からの中継貨物）」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月は減少傾向、以降は増加傾向と予想される。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目		運輸局										
		北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
1. 穀物	増		10		3				1	1	1	16
	減	1								1		2
2. 野菜・果物	増	4	1		1			1	2	11		20
	減	2	2		1		1	1	1	2		10
3. その他の農産品	増	15	1	1					1	1	1	20
	減							1				1
4. 畜産品	増		1					1		2		4
	減	1	1									2
5. 水産品	増	3	2			1		1	1		1	9
	減		1					1				2
6. 木材	増	6	1		3							10
	減	2					1	2		1		6
7. 薪炭	増											
	減											
8. 石炭	増	2						1		2		5
	減	1							1			2
9. 金属鉱物	増											
	減		1									1
10. 砂利・砂・石材	増	6	5		1			4		3		19
	減	8			2				1	1		12
11. 工業用非金属鉱物	増	1	2					1				4
	減		1									1
12. 鉄鋼	増	1		1			1	3	1	2	1	10
	減		1				1					2
13. 非鉄金属	増				1					1		2
	減											
14. 金属製品	増	3	1	1	2		2	5				14
	減				1		4	1		2		8
15. 機械	増		2		3	4		4	1	3		17
	減	1	1	1	1		4	1		2		11
16. セメント	増	5	3		1			7	1	4		21
	減		1		1					2		4
17. その他の窯業品	増		1		1			1		1		4
	減									2		2

品目	運輸局	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
		18. 揮発油	増	2	1		2					
19. その他の石油製品	増	4	1	2	3			1		3		14
	減							1				1
20. コークス・ その他の石炭製品	増				1							1
	減											
21. 化学薬品	増	1			1			2		1		5
	減											
22. 化学肥料	増		2	1			1			1		5
	減									1		1
23. その他の化学工業品	増							3				3
	減								1	1		2
24. 紙・パルプ	増	3	1	1	1	1	1	2		2	1	13
	減		2							2		4
25. 繊維工業品	増					1	2					3
	減											
26. 食料工業品	増	2	1		2		1	4		1	1	12
	減		5	1		2	3	3	1	2	1	18
27. 日用品	増					1		1				2
	減											
28. その他の製造工業品	増		4	1		3		1		2		11
	減					1	1	2				4
29. 金属くず	増	1										1
	減											
30. その他のくずもの	増											
	減											
31. 動植物性飼・肥料	増	2								3		5
	減	3										3
32. 廃棄物	増			1						4		5
	減	1						1		1		3
33. 輸送用容器	増	1					1					2
	減											
34. 取り合せ品	増		1					3		2	1	7
	減		1		1	2				2	1	7
35. その他	増			2		1	4	5		6	2	20
	減			1	1		4			1		7